

本のむし

教育実習生のおすすめの本

石川諒 先生（理科）

『鹿の王』 913/ウ

著者：上橋菜穂子

マンガに飽きた時にこの本を読みました。
あらすじは、ある時、塩を採掘するための岩塩抗で野犬によって鉱山奴隷が襲われ、鉱山の中で謎の疫病がまん延してしまい、奴隷の男と生まれて間もない子だけが生き残る…

この本はマンガに飽きた人にすごくオススメです。



橋本和奏 先生（家庭科）

『嫌われる勇氣』 146/キ

著者：古賀史健、岸見一郎

大学で心理学について学ぶ機会があり、その際に大学の先生にすすめられて読みました。

人は好かれたいと思うことが一般的ですが、あえて嫌われるということがどういうことなのかを教えてくれる本です。中学、高校、大学へと進む中で、考え方が全く異なる人たちも出てきます。そんな時に役立つ内容なので、思春期という大切な時期をすごしている皆さんには是非読んで見て欲しいです。



豊島カレン 先生（社会）

『残像に口紅を』 913/ツ

著者：筒井康隆

本屋さんでたまたま目に入り、名前が気に入ったのであらすじを読んでもみると面白そうだったので読んでみることにしました。

この本は、小説の中で、一つずつ五十音が使えなくなっていく、言語が消滅するなかで、執筆し、飲食し、講演し、交情する小説家を描いた作品です。



坂尻泰輝 先生（数学）

『博士の愛した数式』 913/ウ

著者：小川洋子

塾の先生にすすめられてこの本を読みました。

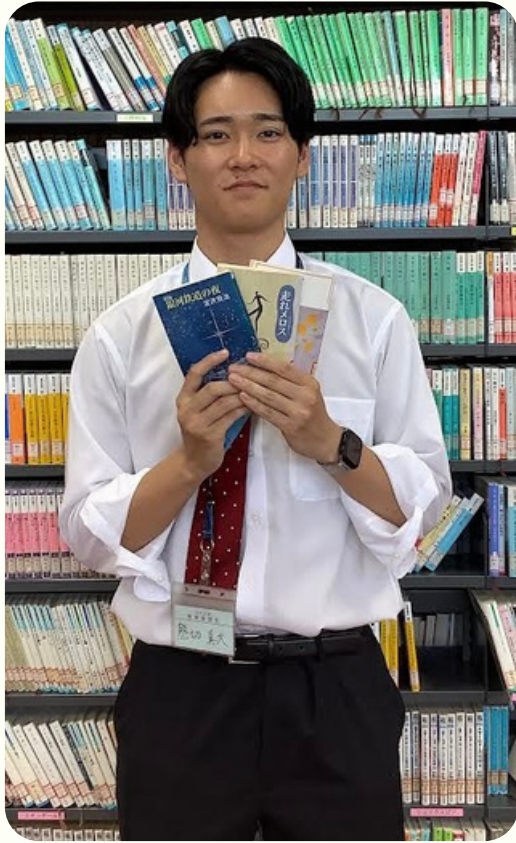
不意の交通事故で、天才数学者の博士は記憶がたった80分しかもちません。何を喋っていいかわからなくなった時、言葉の代わりに数字を持ち出します。それが他人と話すために博士が編み出した方法だったのです。シャイで突拍子のない行動に出つつも子どもには無償の愛を注ぐ博士がとても素敵でした。



熊切真大 先生（国語）

『銀河鉄道の夜』 913/三

著者：宮沢賢治



大学で近代文学研究ゼミに所属しており、本を読み漁っていたところ出会いました。

母が病気で父は漁に出かけて帰ってこない。バイト先では虫眼鏡くんと馬鹿にされ、学校でもあまり馴染めていない主人公のジョバンニがいつの間にか銀河を走る鉄道、“銀河鉄道”に乗り込み、銀河を旅するお話です。

彼はなぜ銀河鉄道に乗車し、誰と出会い、何を得て帰るのか。作品から見え隠れする作者の宗教批判や死生観など、読む度に新しい発見が止まりません。

『銀河鉄道の夜』は今から丁度100年前の1924年から書き始められた作品とされています。100年の時を経て、いまだに愛され続ける賢治の言葉に触れることの出来る素晴らしい作品だと思います。

『智恵子抄』 913/夕

著者：高村光太郎

高校二年生の現代文の授業中に新倉先生が紹介してくださったのがきっかけです。「こんなに綺麗で優しい日本語ってあるんだ！」と高校生ながら衝撃を受け、その次の日に本屋さんに行きました。

作者である高村光太郎が智恵子さんという女性に出会ってから恋に落ち、結婚し、病気になり、死別した後の全てを詩にした、たくさんの愛に包まれた詩集です。正直私はこの作品の良さを理解しきれていません。私が結婚して、歳をとった時ようやくこの作品の言葉が心に響くのだと思います。今は単純に言葉が織りなす心地よさに魅力を感じています。この作品を読み返す度に周りの人に愛を持って接することができるような気がしています。

優しく美しく、それでいて強かな言葉に触れたい人は読んでみると良いと思います。SNSの普及によって誰でも簡単に言葉を発信できるようになったこの時代だからこそ、読み継いでいきたい言葉だと思います。

『駆け込み訴え』 913/ダ

著者：太宰治

『駆け込み訴え』は作者である太宰が、口頭で作品内容を話し始め、それを妻が書き取ったことで完成した作品です。太宰はお酒を飲みながら、言い淀みも言い直しもせずにこの作品の内容を全て言い切ったそうです。

「申し上げます。申し上げます。旦那さま。」から始まる作品は口語体で書かれた作品であり、目の前で太宰が話しているかのような臨場感が堪らないです。

一体誰が何を訴えている話なのか、旦那さまとは誰のことか、愛とは何か、この作品における“嘘”とは何なのか。全ての謎が最後に回収される爽快感。太宰ファンは勿論、近代文学に興味を持つ全ての人におすすめできる名作だと思います。

湘南学園中高図書室

古本提供のお願い

家にある読まなくなった本の提供をお願いします!!

本の回収ボックスは
・クラスエリア1階中央階段付近
・2階エレベーター付近
・図書室前
にあるよ

たくさん本を
持ってきてくれたらいい
ことあるかも!?



※大量に古本がある場合は直接図書室に持ってきてください